

平成29（2017）年度 大阪大学大学院言語文化研究科

言語社会専攻／日本語・日本文化専攻博士後期課程学生募集要項

I アドミッション・ポリシー

1 言語社会専攻アドミッション・ポリシー

言語社会専攻は、世界の諸言語とそれを基底とする文化一般についての理論と実践にわたる教授・研究を通し、外国の言語や文化、社会に関する高度な専門的知識を有する研究者のみならず、国際舞台で活動するために必要な広い知識と高い教養そして外国に関する深い理解を有する有為な人材を養成することを教育理念としています。

上記の教育理念に基づき、世界諸地域の言語とそれを基底とする文化について理論と実践の両面にわたり研究を行い、特定地域の言語の専門的知識を身につけ、その言語あるいは言語圏の文化と社会に関する先端的研究を行う研究者をめざす学生および世界の諸地域の言語・文化に関する高度の教養を有し、国際舞台で活躍するのにふさわしい高度専門職業人をめざす学生を求めています。

2 日本語・日本文化専攻アドミッション・ポリシー

日本語・日本文化専攻は、日本語・日本文化を通して日本と世界を結ぶ人材を養成することを目的としています。アジア、アフリカへの関心が世界的に深まっている現在、日本語・日本文化の意味づけも大きく変わりつつあり、その教育研究の必要性が従来に増して高まっています。日本語・日本文化を取り巻くこの新しい状況において、本専攻は優れた人材を広く世界に求め、伝統的な学問の枠組みにとらわれることなく、日本語・日本文化を世界の諸言語・文化・社会との有機的な関連の中でとらえる教育研究を推進します。このような理念のもと、本専攻は日本語・日本文化の教育研究に強い関心を持ち、積極的に取り組もうとする学生を求めています。

※ 詳しくは、ホームページ上のアドミッション・ポリシーをご覧ください。

URL http://www1.lang.osaka-u.ac.jp/about_lc/a_policy.html

II 募集人員

専攻	募集人員
言語社会専攻	8名
日本語・日本文化専攻	5名

III 出願資格

次の各号のいずれかに該当する者

- (1) 修士の学位若しくは専門職学位を有する者又は平成29年3月31日までに取得見込みの者
- (2) 外国において修士の学位若しくは専門職学位に相当する学位を授与された者又は平成29年3月31日までに授与される見込みの者
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を日本において履修し、修士の学位若しくは専門職学位に相当する学位を授与された者又は平成29年3月31日までに授与される見込みの者
- (4) 日本において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度

- において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位若しくは専門職学位に相当する学位を授与された者又は平成29年3月31日までに授与される見込みの者
- (5) 国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者又は平成29年3月31日までに授与される見込みの者
- (6) 外国の学校、第4号の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し、大学院設置基準第16条の2に規定する試験及び審査に相当するものに合格し、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者
- (7) 文部科学大臣の指定した者 * ①・②
- (8) 本研究科において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者で、平成29年3月31日までに24歳に達するもの
- * ① 日本の大学を卒業した後、大学・研究所等において、2年以上研究に従事した者で、本研究科において、当該研究の成果等により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められたもの
- ② 外国において学校教育における16年の課程を修了した後、又は外国の学校が行う通信教育における授業科目を日本において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した後、大学・研究所等において、2年以上研究に従事した者で、本研究科において、当該研究の成果等により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められたもの
- ※ (7)又は(8)に掲げる出願資格により出願しようとする者は、あらかじめ出願資格の認定を受ける必要があるので、「IV 出願資格事前審査」を参照してください。

IV 出願資格事前審査

III(出願資格)の(7)又は(8)に掲げる出願資格により出願しようとする者については、出願前に個別の出願資格事前審査を行いますので、平成28年9月23日(金)までに、下記の「事前審査提出書類」を提出してください。なお、封筒の表に「出願資格事前審査」と朱書きしてください。

[事前審査提出書類]

- (1) 入学試験出願資格認定申請書(所定用紙)
 - (2) 研究業績調書(所定用紙)
 - (3) 主要論文((2)の研究業績調書のうちから主要論文3点をそれぞれ3部提出してください。日本語以外の論文の場合は、日本語訳文を3部添付してください。)
 - (4) 最終学校の卒業証明書*又は修了証明書*
 - (5) 最終学校の成績証明書*
- * 写しでも可(ただし、出願資格認定後の出願に際しては、原本を提出してください。)。日本語以外の証明書の場合は、日本語訳文を添付してください。

V 出願手続等

1 出願書類等

出 願 書 類 等	摘 要
入 学 願 書 (所定の用紙)	・写真は、上半身正面向無帽で、出願前3か月以内に撮影したものを貼付してください。(写真の大きさ縦4cm×横3.5cm, 1枚)
入学志願者写真票 (所定の用紙)	・写真は、上半身正面向無帽で、出願前3か月以内に撮影したものを貼付してください。(写真の大きさ縦4cm×横3.5cm, 1枚)
成 績 証 明 書 及び 修了(見込)証明書	・出身大学(修士課程又は博士前期課程)の学長又は研究科長が作成し、厳封したもの ・偽造防止用紙による証明書の場合は、特に厳封を要しません。 ・日本語以外の証明書の場合は、日本語訳文を添付してください。 ・婚姻等により証明書に記載された氏名と現在の氏名が相違している場合は、改名したことを証明する公的書類を添付してください。
学力認定(確認)書類 (Ⅲ(出願資格)の(6) に掲げる出願資格により 出願する場合)	・出身大学長等が作成(署名)したもので、下記の内容が記載されたもの 【記載例】□□大学としては、本学の学生である◇◇◇◇氏は、「(審査名称)」に合格し、修士の学位を有する者と同 等以上の学力を有する者であることを確認し、報告いたします。また、当該審査に関する以下の資料を添付します。 【添付資料の例】 ・当該審査の合格の基準 ・当該審査の合格と当該大学における修士の学位の授与要件 の関係を示す資料 ・当該審査に合格した者と当該大学に編入学した他の大学の 修士の学位を有する者の当該大学における博士の学位を授 与するプログラムにおける取扱いの関係を示す資料
修士論文等	・修士論文の写し2部又はこれに代わる論文(点数は問わない。)を1点につき2部提出してください。(氏名を記載した表紙を添付してください。) ※本研究科の(平成29年3月)修了見込みの者についても、必ず出願用として2部提出してください。 ・出願期間中に論文を提出することができない者は、出願の際に必ず「論文提出期限延長希望理由書」(論文の提出日を明記し、志願者本人が署名、捺印したもの:様式は自由)を提出してください。 なお、提出の延長期限は、平成29年1月20日(金)17時(持参又は郵送による必着)とします。 ※修士論文等を、出願期間中(論文提出期限の延長を希望した者については、平成29年1月20日(金)17時まで)に提出しなかった者については、受験を認めません。(出願書類及び納付された検定料は返付しません。)この場合、「受験辞退届」(書式は自由:A4判用紙で、本人が署名・捺印したもの)を提出していただきます。

出 願 書 類 等	摘 要
修士論文等の要約 (所定の用紙)	<ul style="list-style-type: none"> 提出論文ごとに、日本語で2,000字程度の要約を作成してください。なお、外国語の論文を提出する者については、日本語で6,000字程度の要約を作成してください。その場合は、本学所定の用紙に適宜任意の用紙(A4判)を補足して作成してください。 論文提出期限の延長を希望する者(「修士論文等」欄参照)についても、論文の要約については、必ず出願期間中に提出してください。(論文の要約についての提出期限の延長は認めません。)
研究計画書 (所定の用紙)	<ul style="list-style-type: none"> 入学後の研究計画について、2,000字程度(日本語)で作成してください。
修学歴調書 (所定の用紙)	<ul style="list-style-type: none"> 外国において学校教育の課程を修了した者については、必ず提出してください。
研究業績一覧 (所定の用紙)	<ul style="list-style-type: none"> 出願時まで、学術論文の公表、学会等での研究発表などの研究業績を有する者は、提出してください。
検 定 料 (30,000円)	<ul style="list-style-type: none"> 出願書類に添付している検定料振込依頼書により、銀行窓口で振り込んでください。(ATM、インターネット等は利用できません。)※ゆうちょ銀行(郵便局)からは振り込みできません。 なお、振込手数料は、志願者の負担とします。 検定料納付証明書は、必ず願書の指定された場所にはがれないように貼付して提出してください。 (注)平成29年3月に本学大学院博士前期(修士)課程又は法科大学院の課程を修了見込みの者及び国費外国人留学生として入学する者については、検定料は不要です。ただし、後者の者については、国費外国人留学生であることを証明できる書類を提出してください。
受 験 票 (所定の郵便はがき)	<ul style="list-style-type: none"> はがきの表面に、住所・氏名・郵便番号を明記し、速達用料金として332円分の切手を貼付してください。なお、裏面は受験票になっているので、太枠内に受験言語・氏名等を忘れずに記入してください。

(注) 1 出願書類は返却しません。

2 納付された検定料は返却しません。ただし、本研究科が出願書類の不備等の理由により出願書類を受理しなかった場合又は誤って納付した場合は、本人の請求に基づいて返付します。

2 出願期間 平成28年12月5日(月)から12月9日(金)17時まで(本学必着)

3 出願方法

出願書類等を箕面事務室学生支援係に必ず出願期間内に到着するように郵送(書留)により提出してください。ただし、期限後に到着したもので、平成28年12月7日(水)以前の日本国内発信局消印のあるものについては受け取りません。

VI 入学者選抜方法

入学者の選抜は、学力検査の成績、口述試験、修士論文又はこれに代わる論文、研究計画書及び成績証明書等の審査の結果を総合して行います。

(1) 学力検査等の日程

実施期日	試験科目(配点)	時間	摘要
平成29年2月12日(日)	言語(100点)	10:30から12:00まで	※1
	口述試験	13:00から	※2

※1 受験する「言語」を、出願の際に届け出ること。

中国語、朝鮮語、モンゴル語、インドネシア語、フィリピン語、タイ語、ベトナム語、ビルマ語、ヒンディー語、ウルドゥー語、アラビア語、ペルシア語、トルコ語、スワヒリ語、ロシア語、ハンガリー語、ドイツ語、デンマーク語、スウェーデン語、英語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ポルトガル語のうちから、「第一言語」(注)を除く、志願者選択の1言語の問題を課す。ただし、外国人の志願者は、前記言語に代えて日本語を選択受験することができる。

(注)「第一言語」とは、いわゆる「母語」のことで、志願者が最も自己を表現しやすい言語をいう。

※2 提出論文等及び志望する専攻分野について、口述試験を行う。

(2) 試験場

大阪大学箕面キャンパス

おおさかふみのおしあおまたにひがし
大阪府箕面市粟生間谷東8丁目1番1号(「所在地経路図」参照)

VII 合格者の発表

合格者の発表は、平成29年2月17日(金)13時から大阪大学箕面キャンパス「阪大外国語学部前」バス停前掲示板で、受験番号の掲示により行うとともに、合格者には合格通知書及び入学手続案内を送付します。

なお、合否に関する電話による問い合わせには一切応じません。

また、言語社会専攻/日本語・日本文化専攻のホームページでも合格者の受験番号を公開する予定です。

VIII 入学手続

合格者は、合格通知に同封する入学手続案内に従い、入学手続を完了してください。

なお、指定された入学手続期間中に入学手続を完了しない者は、入学を辞退したものととして取り扱います。

IX 入学料及び授業料(下記の金額は予定であり、今後変更することがあります。)

1 入学料 282,000円(本学大学院博士前期(修士)課程又は法科大学院の課程を修了し、引き続き博士後期課程に入学する者については、入学料は不要です。)

2 授業料 535,800円(第1学期分 267,900円・第2学期分 267,900円)

(注1) 在学中に授業料の改定が行われた場合には、改定時から新授業料が適用されます。

(注2) 入学料及び授業料の支払方法等については、入学手続案内にて通知します。

X 個人情報の取扱い

出願書類等に記載されている氏名、生年月日、住所、その他の個人情報は、入学者選抜、合格者発表及び入学手続等の入試業務並びに入学後の修学指導業務等を行うために利用します。

取得した個人情報は、適切に管理し、利用目的以外には使用しません。

XI その他

- 1 出願書類等の請求・照会等先は、末記の「問い合わせ先」とします。なお、郵送で請求を行うときは、封筒の表に「言語文化研究科言語社会専攻／日本語・日本文化専攻博士後期課程募集要項請求」と朱書きし、返信用封筒（角形2号封筒に400円分の切手を貼付し、本人の宛名を明記したもの）を同封の上請求してください。
- 2 出願書類の記入事項及び書類等に不備がある場合は、受理しません。
- 3 出願書類受理後は、書類の差し替えや記入事項の変更は認めません。また、出願書類及び納付された検定料は返付しません。
- 4 出願書類等に虚偽の記載をした者は、入学決定後であっても入学の許可を取り消すことがあります。
- 5 身体に障害のある者で、受験上及び修学上特別な配慮を希望するものは、出願に先立ち、平成28年10月28日（金）までに、末記の「問い合わせ先」に問い合わせてください。

XII 受験上の注意

- 1 試験場（大阪大学箕面キャンパス）及び最寄り駅からの経路については、巻末の所在地経路図を参照してください。
- 2 試験室等については、試験当日、大阪大学箕面キャンパス研究・講義棟A棟1階玄関ホールに掲示します。
- 3 試験当日は、受験票及び筆記用具（黒鉛筆又は黒い芯のシャープペンシル、消しゴム）を必ず持参してください。なお、受験票を忘れた場合は、試験場本部に申し出てください。
- 4 時計については、計時機能だけのものに限り使用を認めます。
- 5 受験者は、試験開始時刻の20分前までに試験室に入室し、受験番号ごとに指定された受験席に着席してください。
- 6 試験開始時刻に遅刻した場合は、試験開始時刻後20分以内の遅刻に限り、受験を認めません。
- 7 試験開始後は、原則として当該試験終了まで退室を認めません。なお、試験中の発病等やむを得ない事情により一時退室を希望する場合は、挙手して試験監督者に申し出てください。
- 8 試験に関して不正な行為があると認められた時は、その者の試験を無効とし、以後の受験を禁止します。
- 9 口述試験の開始10分前までには筆記試験室に待機しておいてください。
- 10 口述試験室へは、担当者が誘導しますので、その指示に従ってください。
- 11 口述試験は、受験番号順には行いません。また、受験者ごとに試験開始時刻・終了時刻が異なりますので、担当者から指示があるまで、必ず筆記試験室で待機しておいてください。

《問い合わせ先》

大阪大学言語文化研究科・外国語学部箕面事務室学生支援係
〒562-8558 大阪府箕面市粟生間谷東8丁目1番1号
TEL (072) 730-5069 (直通)
URL <http://www1.lang.osaka-u.ac.jp/>

●言語社会専攻教員研究分野

区分	職名	指導教員	研究分野	研究題目
中国語	教授	青野 繁治	中国現代文学	①中国現代文学研究 ②中国モダニズム文学の研究
		古川 裕	中国語学・中国語教育	認知言語学による現代中国語構文論、語構成論; 中国語教育における到達度評価
	准教授	今泉 秀人	中国現代文学	中国現代文学の表現とその内容に関する研究 特に沈從文と魯迅、また映画と小説との関係について
		林 初梅	言語社会学	近現代台湾研究
朝鮮語	教授	岸田 文隆	朝鮮語学(朝鮮語史研究)	江戸期対馬の朝鮮語学書についての文献学的研究
	准教授	小西 敏夫	朝鮮語学	言語表現を通して見た『釈譜詳節』と『月印千江之曲』と『月印釈譜』と、原典の仏典の関係について
		酒井 裕美	朝鮮近代史	19世紀後半、統理交渉通商事務衙門を中心として行われた朝鮮の外交政策について
モンゴ	教授	塩谷 茂樹	モンゴル語学、モンゴル口承文芸	①モンゴル語形態論、語彙論研究 ②モンゴル語ことわざ、民話、慣用句研究
インドネシア語	准教授	原 真由子	社会言語学、インドネシア語学、バリ語学	①バリ語とインドネシア語のコード混在 ②バリ語山地方言の社会言語学的研究
		菅原 由美	インドネシア近代史	インドネシア近代におけるイスラームの展開
フィリピン語	教授	大上 正直	フィリピン語学	①フィリピン語文法研究 ②フィリピンにルーツをもつ在日児童生徒の母語保持問題研究 ③フィリピン語辞典編纂
	准教授	宮脇 聡史	フィリピン地域研究	フィリピン市民社会(特にカトリック教会)の国民意識・歴史認識と政治・社会参加
タイ語	教授	宮本 マラシー	社会言語学	①タイ語表現 ②タイ語コミュニケーション ③タイ語と性差
	准教授	村上 忠良	タイ地域研究、文化人類学	①声と文字をめぐる宗教実践 ②タイ系民族シャンの社会と文化 ③タイ国内の宗教的少数派
ベトナム語	准教授	清水 政明	ベトナム語学	①字喃、ローマ字資料、ベトナム漢字音によるベトナム語音韻史 ②日本人によるベトナム語習得に関する研究 ③コンピュータ支援型外国語教育(CALL)
	助教	ファン・ティ・ミー・ロアン	ベトナム語教育	日本語とベトナム語の両言語で使われる熟語の意味・用法にある異同の考察
ビルマ語	教授	加藤 昌彦	言語学	ビルマ語およびカレン系諸言語の記述言語学的研究
	准教授	井上 さゆり	ビルマ古典音楽、古典文学	①ビルマ古典歌謡におけるジャンル形成 ②ビルマ古典歌謡における口承と書承
		池田 一人	ビルマ地域研究、ビルマ史	①19世紀ビルマの民族形成史、②ビルマの民族問題をめぐる史観研究
ヒンディー語	教授	高橋 明	ヒンディー語学・文学	①ヒンディー語を含む近・現代インド文学 ②マラーティー語語彙の研究
	准教授	長崎 広子	中世ヒンディー文学	古ヒンディー語によるヒンドゥー教バクティ文学の思想と文学形式の研究
	講師	西岡 美樹	言語学・ヒンディー語学	①ヒンディー語の言語構造 ②ヒンディー語の談話構造 ③日本語とヒンディー語の対照研究

区分	職名	指導教員	研究分野	研究題目
ウルドゥー語	教授	松村 耕光	ウルドゥー語学、文学	近代ウルドゥー語および近代ウルドゥー文学の形成に関する研究
		山根 聡	ウルドゥー文学 南アジアのイスラーム文化	①ウルドゥー語の国語化に関する研究 ②南アジアにおけるイスラーム運動の諸相
	准教授	北田 信	ウルドゥー語学	①ウルドゥー語学・文学 ②新期インド・アリア語の文学 ③南アジアの伝統芸能
アラビア語	教授	近藤 久美子	アラビア語学、アラブ文学	アラビア語文法、アラブ古典文学、アラブ地域の民俗伝承研究
	講師	依田 純和	アラビア語方言論	現代アラビア語の文法記述、マルタ語研究全般
ペルシア語	教授	藤元 優子	イラン現代文学	イラン現代小説とジェンダー
	准教授	竹原 新	イラン民俗学	イランの口承文芸に関する現地調査資料の基盤整備と民俗学的応用研究
	講師	ジャハドザデ ショ ルプラグ ベヘナム	ペルシア語学、言語学	現代ペルシア語の言語学観点からの研究
トルコ語	教授	大澤 孝	トルコ文化史研究	古代テュルク系遊牧民の碑文言語と歴史文化の調査研究
	准教授	藤家 洋昭	記述言語学	チュルク諸語の記述言語学的研究
	講師	宮下 遼	トルコ文学(史)、トルコ社会史	近世トルコにおける文化的選良層の実態解明、トルコ文学現代作家の社会性を巡る言説研究
スワヒリ語	教授	竹村 景子	スワヒリ語学、スワヒリ文学、 スワヒリ文化論	①スワヒリ語諸変種の記述研究 ②現代スワヒリ文学研究 ③スワヒリ地域における女性の語りと歴史記述の研究
		米田 信子	言語学、社会言語学	①バントゥ諸語の名詞修飾構文 ②バントゥ諸語の情報構造 ③多言語社会における言語政策・言語権
	准教授	小森 淳子	アフリカ言語学	①バントゥ諸語における動詞派生形の形態・統語論的研究 ②ヨルバ語の統語論記述研究
ロシア語	教授	上原 順一	ロシア語学	現代ロシア語の語形成・語彙論研究
		林田 理恵	ロシア語学	①ロシア語アスペクトおよびヴォイス・カテゴリーの状況編成における機能分析研究 ②日本の中等・高等外国語教育多言語化の文脈におけるロシア語教育・学習理論の基盤整備
		藤原 克美	ロシア経済論	①ロシアの企業及び産業の研究 ②ソビエト消費財産業の研究
	准教授	横井 幸子	ロシア語教育・言語教育	①高校におけるロシア語教育支援のための基盤研究 ②日本における外国語教育政策研究
ハンガリー語	教授	早稲田 みか	ハンガリー語学	ハンガリー語動詞接頭辞の多義性
	准教授	岡本 真理	ハンガリー言語社会論	近代ハンガリーの民族言語・文学運動
ドイツ語	教授	進藤 修一	ドイツ・オーストリア近現代史	①近代ドイツ教育社会史 ②ドイツ語圏における教育と民族 ③現代ドイツの移民問題と教育
		中川 裕之	ドイツ語学／言語学	①ドイツ語談話コーパスを用いた語用論的統語変異研究②ドイツ語と日本語の対照研究 ③ドイツ語圏スイスの多言語社会文化研究
		山元 孝郎	ドイツ文学	ヤーコプ・ミヒャエル・ラインホルト・レンツとゲオルク・ビューヒナーの戯曲作品
	講師	黒谷 茂宏	ドイツ語学／言語学	①ドイツ語文法研究(形態統語論・意味論・語用論) ②言語類型論 ③一般言語理論

区分	職名	指導教員	研究分野	研究題目
デンマーク語	教授	新谷 俊裕	デンマーク語学	①デンマーク語－日本語辞典編纂のための基礎研究 ②現代デンマーク語文法研究
		田邊 欧	デンマーク文学・北欧文学	①デンマーク近・現代文学 ②北欧モダニズム研究
	准教授	石黒 暢	社会福祉学、福祉国家論、社会政策	①北欧と日本の高齢者介護・子育て支援政策に関する研究 ②ケアワークに関する研究 ③福祉国家比較研究
スウェーデン語	教授	高橋 美恵子	社会学、家族政策	①スウェーデンと日本の家族・ジェンダー ②ワーク・ファミリー・バランスの国際比較研究
	准教授	古谷 大輔	近世スウェーデン史(西洋史)	スウェーデンを対象とした近世ヨーロッパにおける複合的国家編成の研究
	講師	當野 能之	スウェーデン語学、言語学	現代スウェーデン語の不変変化動詞に関する研究
英語	教授	大津 智彦	英語統語法の歴史的変遷	①コーパスを使った英語統語法の史的変遷の記述と説明 ②現代英語に起こりつつある統語的变化の研究
		岡田 新	現代イギリス政治史	イギリスにおける自由党の衰退と労働党の勃興
		貴志 雅之	アメリカ演劇	①アメリカ演劇・文化研究(18世紀からポスト9.11まで) ②20世紀・21世紀アメリカ演劇の政治学研究
		杉田 米行	アメリカ史	①アメリカ政治外交史 ②日米医療保険制度
		畑田 美緒	イギリス文学	19世紀のイギリス小説
		渡邊 克昭	アメリカ文学・文化	①現代アメリカ文学・文化研究 ②文学批評理論 ③アメリカ映像文化・メディア表象論
	准教授	中村 未樹	イギリス演劇・イギリス文化	①エリザベス朝の舞台慣習と演技 ②イギリス演劇の通時的研究 ③イギリス文化研究(初期近代から現代まで)
フランス語	教授	川北 恭子	フランス語学	フランス語の連結詞に関する研究
		高階 早苗	フランス近現代文学	マルルメにおける時空間の問題
	講師	岡田 友和	フランス近現代史	19-20世紀フランスの植民地と帝国をめぐる歴史研究
イタリア語	准教授	菊池 正和	イタリア文学	①イタリア近現代演劇 ②近現代シチリア文学
スペイン語	教授	大内 一	スペイン中・近世史	①中世カスティーリヤ王国の王権に関する研究 ②中世スペインの都市社会に関する研究 ③カトリック両王に関する研究 ④アルフォンソ10世に関する研究
		長谷川 信弥	スペイン語学、カタロニア語学、ロマンス語学	イベリア半島のロマンス語(特にカタロニア語、スペイン語)に関する記述的研究
	准教授	中本 香	近代スペイン史	近代スペインにおける国家編成の理論と実践
		松本 健二	ラテンアメリカ文学(主として現代詩)	ラテンアメリカ・アヴァンギャルド研究、および、ポスト・ブームの小説研究
		岡本 淳子	スペイン文学	①フランコ独裁政権下の検閲と演劇 ②ポスト・フランコの演劇
ポルトガル語	教授	東 明彦	ブラジル史	① 植民地時代初期ブラジルの先住民政策 ②ブラジルの奴隷制
		平田 恵津子	ブラジル文学	①ブラジルモダニズム文学 ②日系ブラジル人の芸術表現
	講師	鳥居 玲奈	ポルトガル語学	ポルトガル語文法研究(形態統語論・語彙論)

(注) 1. 指導教員には、主指導教員と副指導教員の区別があります。入学後に主指導教員が決まります。
2. この一覧表は、言語文化研究科と日本語日本文化教育センターの専任教員に限定して作成したものです。

●日本語・日本文化専攻教員研究分野

系統	職名	指導教員	研究分野	研究題目
日本語学・言語学系域	教授	岩井 康雄	日本語学、日本語音声学・音韻論	①語彙カテゴリーと音韻 ②破裂音の有声性
		岸田 泰浩	理論言語学・言語類型論	①統語論を中心とした理論的研究・類型論的研究(格やevidentiality等) ②コーカサスの諸言語(アルメニア語やグルジア語)との対照研究
		中田 一志	現代日本語文法、文法教育	語用論的、認知意味論的アプローチによる日本語のモダリティ、アスペクト研究
		堀川 智也	日本語学	①「主語」「主題」をめぐる研究 ②受身文をめぐる研究 ③話し言葉の文法
		今井 忍	日本語学	日本語の形態法に関する認知言語学的研究
		三原 育子	日本語学	①機能語の類の統語論的研究 ②統語的な観点からの文法体系の構築
	准教授	蔦 清行	日本文学	古代日本語の文法
		山川 太	理論言語学	①日本語動詞における意味構造と統語的特徴との関連 ②漢語レベルにおける意味構造の分析
	講師	儀利古 幹雄	音声学、音韻論、社会言語学	日本語音声の変化に関する社会言語学的研究
日本語域教育学	教授	筒井 佐代	日本語教育学	①日本語の会話の構造分析 ②日本語の話しことば教育への会話分析の応用
		眞嶋 潤子	日本語教育学・言語教育学	①第2言語としての日本語習得研究 ②年少者教育と言語教育政策 ③CEFRと評価
日本文化学系域	教授	加藤 均	仏教学	①近世・近代日本における仏教改革者の思想 ②インドと日本の仏教思想の比較研究
		水田 明男	日本語・日本事情、経済学	日本の社会政策の歩み—ロシアとの比較—
		五之治 昌比呂	比較文学、西洋古典文学	①西洋古典の日本への移入の研究 ②古代ローマ文学研究
	准教授	岩井 茂樹	日本文化史、比較文化	①伝統文化の近代的変容研究 ②タイ王国表象研究
		佐野 方郁	日本近現代史	①近現代日本の国際関係に関する研究 ②戦後日本の史学史の研究
		柴田 芳成	日本古典文学	中世文学の研究

- (注) 1. 指導教員には、主指導教員と副指導教員の区別があります。入学後に主指導教員が決まります。
2. この一覧表は、言語文化研究科と日本語日本文化教育センターの専任教員に限定して作成したものです。